



だより

— つながれ ひろがれ —

編集 環境パートナーシップちば
 代表 加藤 賢三
 事務局 千葉市中央区中央港1-11-1
 (財)千葉県環境財団環境技術部
 環境活動推進チーム
 電話 043-246-2180
 FAX 043-246-6969

はっけん！たんけん！花見川！

<19年度千葉市エコ体験スクール>

千葉市が主催し、環境パートナーシップちばが実施した花見川区の小学生対象のエコ体験スクールが8月28日に行われました。区内16の小学校の子どもたちの応募がありました。定員は40名でしたが、100名近くの申し込みがあり、選から外れた子供達にすまなく思いました。体験場所は花見区に密着した大和田排水機場、花見川、花島公園で、内容はそれぞれの場所でのエコ体験と室内で子供達が自ら行った実験などです。

主催者の説明やスタッフの説明、エコ体験学習のなかで直接見聞きしながら、子供達は知らなかったこと、気づいていなかったことを発見し、楽しそうでした。

<大和田排水機場見学>

低学年の小学生も多かったこともあり、排水機場は初めてという子供が多く、普段身近にはない巨大な設備や排水設備を見て、もの珍しく好奇心をそそられたようです。幸い、当日は新川から花見川へ水を流す日で、ポンプを動かし排水する様子を見ることができました。年に数回しか見られないとのことでラッキーでした。

ポンプを動かすと新川の水が、数メートル高い花見川に押し上げられます。滝が下から上に流れているようなもので、静かだった花見川の水面にモコモコと大量の水が湧き上がりました。枯れた川には水があふれ、流れ始めました。その様子を見た子供達も大人も「ウワアー」と興奮していました。

大雨などで印旛沼の水が増え、洪水になりそうになると、水を花見川経由で東京湾に流し、洪水を防いでいると排水機場のお兄さん達が説明していました。

<花見川観察>

当初は、大和田機場から花島公園まで、エコウォーキングの予定でしたが、今年の夏は大変に暑い日が多く、バスで公園まで移動しました。そこで、花島公園下の花見川を見に行きました。花島橋からの景色は自然が豊かに見えます。川には耳のところが赤い、ミシシッピミドリガメが多く浮



かんでいました。

<花島公園散策>

お昼は、花島公園の中で、テーブルやシートに座って各自持参の昼食を食べました。今朝、初めて出会った友達と何の気兼ねもなく、食事をしながらワイワイ話し合う姿は明るく、楽しそうでした。食後、花島公園の中をエコ散策しました。大きな大賀ハスが咲き、池の周りにはトンボやカメや魚、カルガモなどいろいろな生き物がいました。子どもたちは、公園の中の小川で水遊びをしているのを見て、入りたくなるようで、少しでも水辺の近くによって行きます。花見川にも、親水の方が欲しいと思いました。

<わくわく実験(下水浄化実験)>

花島コミュニティセンター創作室で、千葉県下水道公社のスタッフの皆さんの指導の下に、子供達



が実体験する、「下水処理場で汚水がきれいになるまで」の実験を行いました。

各テーブルに6～7名、計6班に分かれ、公社の新井さんの指導の下に、ビーカーの中に汚水を入れ、沈殿、上澄みの分離、薬品による浄化など、浄水場と基本的には同じ工程を1つ1つ、子どもたちが行き、水がきれいになって行く様子を体験しました。この実験は皆真剣に挑みました。各班の中で、低学年、高学年と役割が自然とできていて、どの班も失敗なしでした。

最後に、各工程のビーカーに入った水のCODを全員で調べ、水をきれいにするにはどうすれば良いかなど話し合い、最も大切な結論は「水を汚さないこと」でした。新井さんの分かりやすく、てんばよく、手を抜かないお話に対し「感謝！」です。

<全員仲良く>

エコ体験も終わりに近づき、バスに乗る時間も近づいてきましたが、全員で公園の芝生の中でマスをゲームをしました。子供達もエコの一部、全員



で夢中で遊ぶ姿は、明るく、楽しそうでした。今回は、小学生41名、スタッフ10名、市役所2名、財団1名の総勢54名でした。また、大和田機場、千葉県下水道公社様のご協力に感謝申し上げます。

(文責：千葉 智雄)

川戸公民館「牛乳パックで紙すきハガキ作り」

広田由紀江

8月4日、千葉市川戸公民館にて「牛乳パックで紙すきハガキ作り」を行ってきました。この日、参加した子どもたちは6人。最初は堅い表情だった子どもたちも、パルプを攪拌するためにペットボトルを振る頃には笑顔になっていました。本来ならば、近所の子どもたちなので作ったハガキは、窓に貼って乾かし、翌日以降にとりに来てもらうのが望ましいのですが、やはり「出来上がりを手にして帰ってもらうほうが参加者にとってよいでしょう」との判断もあり急遽アイロンで乾かすことになりました。

参加者は6人だけでなく見学のお父さんにも参加してもらい、全員でなごやかな空気の中、ハガキ作りを楽しむことができました。手漉きのハガキは、自宅でも出来ますが準備が大変なことが難点です。でも、子どもたちは、「おうちに帰ってから、お母さんともう一度ハガキを作りたい」と意欲的で、自宅で紙すきを楽しむ方法や枠の代用品など、公民館を通じて連絡をいただきました。

ハガキは色を付けるのですが、最初は色を一色だけ入れて作っていました。ハガキ作り慣れてきた頃に二色使ったハガキを作ってもらいました。最後に、「一番お気に入りのハガキはどれ？」と聞いてみると、みんな色を混ぜて作ったハガキをうれしそうに見せてくれました。紙すきは、パルプを取り出すときに牛乳パックを煮ます。そこ



で使うガス、その後にパルプをミキサーでつぶす時、ハガキを乾かすときに使う電気など、エネルギーをたくさん使うことが気になっていました。なるべくエネルギーを使わず、上手に出来るよう、そして楽しくできるように工夫した結果現在のやり方に落ち着くこととなりました。最近、学校現場からも依頼をたくさん頂きます。大忙しの毎日です。

千草台公民館講座「ホタルの生活史」

荒尾繁志

夏休みが始まった7月27日(金)、千草台公民館で、「ホタルの生活史」というタイトルで公民館講座を開催しました。この講座は千葉市環境教育講座として、各団体より学習シートを募集し、公民館から団体に講座の依頼があり開催するものです。千草台公民館の周りの子どもたちは少なく、公民館の方が参加者数を心配されていましたが、当日は約20名の子どもたちが集まりました。公民館の方もホットされたようです。いつも人集めは難しいと共感するところです。

オリエンテーションも終わり加藤さんの「ホタルの一生について」の話が始まると子ども達の反応が一変する。千草台の周辺ではホタルを見る場所がないはずなのに「知っている!」「見たことがある!」「田舎で捕まえたよ!」などなど段々と熱が入ってきました。クイズ方式の解説は子ども達の集中力を高めるのでしょうか、飽きてしまう子ども達もいなかったようでした。

加藤さんが飼育している「ヘイケボタルの幼虫と成虫」の特別出演の時間になると、参加者全員が目線が加藤さんの手元にあつまりました。「早

く見せて...」とせがんでいるのをひしひしと感じ、加藤さんの手が忙しくなる。幼虫や成虫をかわいらしい手の先に乗せジッと見つめている顔は真剣そのものでした。「あっ 光った!」「飛んだよ!」「踏まないように気をつけて!」...と子ども達の声が飛び交うのを聞いていて嬉しく思いました。

ホタルの発光のしくみを実験で見る「ホタライト」の実験にも、子どもたちはたいへん興味を示しました。

趣向を変えて「ホタル」と言う名の付いた紙飛行機を折り、飛ばし方を説明しましたが、飛ばすのがなかなか難しく時間が来てしまいました。最後に復習の意味も含め、「ホタルについて」のクイズをやってみました。驚くことに全問正解で、子どもたちにはホタルを興味深く学習したと実感しました。

アンケートにもなかなか良い結果が出ていたようで、来年も公民館の行事として組んでいただけるかな? その時にはもっと素晴らしい体験をさせてあげたいと思った次第でした。

「浦安市第2期基本計画策定に向けて

13ヶ月かけて市民会議が提言書を作成」

横山 清美

浦安市は、平成20年度から10年間の浦安のまちづくりの基本方針「第2期基本計画」の策定にあたり、市民と行政との協働の視点から、多くの市民が計画づくりに参画すべきであると考え、市民と行政が共にこれからの浦安のまちづくりの目指すべき方向性や取り組む内容等を話し合うことを目的として 第2期基本計画策定浦安市民会議を平成18年8月29日に設置しました。

委員構成は、浦安市在住・在勤・在学の公募市民によるボランティアの「市民委員」206名(平均年齢54.8歳)、市役所職員の「職員委員」26名、専門的な立場から計画作りにアドバイスを行う学識経験者の「学識者委員」17名でした。会議事務局は、経営企画部企画政策課と(株)首都圏総合計画研究所が担当しました。

市民会議は、委員数が多いため全体会議は3回

のみで、「健康・福祉」「教育・生涯学習」「市民活動・交流」「暮らし・環境」「街づくり」「都市経営」の6つの分科会に分かれて議論を進めました。各分科会12回の会議(都市経営のみ20回)平成19年5月に「中間報告」9月の全体会議を経てまとめ、9月29日最終提言書を松崎市長に提出いたしました。

この様子は、分科会毎の資料から議事録まで詳細に市民会議専用ホームページにて情報を公開していますので、いつでも見る事ができます。

浦安市は今後、市民会議からの提言を最大限尊重しながら「第2期基本計画素案」を作成、更にパブコメでの市民の意見を反映し、基本計画審議会での審議・答申を受けて20年3月には策定の予定です。委員として参加した市民が今後も市民参加して行くことを願っています。

「エコメッセ2007inちば」

エコメッセ2007inちば実行委員長 加藤賢三

エコメッセは、子どもから大人まで、楽しみながら環境に関心を持ってもらい、環境保全の取組に参加してもらうことを目的として開催しています。環境にあまり関心のない人を対象として、これまでさまざまな努力をしてきました。今年は、チンドン屋さんとともに街頭宣伝をするなど、多くの人にエコメッセに来場をうながす広報に努力しました。その結果、今年は、2007年80団体、来場者、7,100人となりました。

今年、印象に残ったことは、

- エコステージの内容が充実したことを実感できたこと。
- 市民も企業も行政も一体となって会場を盛り上げ、地球温暖化防止活動の紹介ができたこと。
- 併催事業として、ゴア元副大統領の「不都合な真実」の2回の上映とも立ち見が出るほど人気がありました。
- また、八都県市3R学生サミットでは、ごみ減量のワークショップが人気でした。これが、文字通り、G20のキックオフに向けての助走、ホップ、ステップ、ジャンプ、のホップになりました。
- 文字通りの環境活動見本市として、にぎやかで宣伝・広報活動が十分にできたこと。
- グリーン電力を使用したこと。

細かく見てみますと、

エコステージでの子ども向けの環境学習、S社による気象予報士さんお二人の気候変動、環境について、温暖化防止について、のわかりやすく興味深い話が印象に残りました。

しかし、何といっても子どもたちが喜んでくれていたのは、ロッセマリーonzのキャラクターショーでした。語りかける言葉が子どもたちに「なるほど」と説得力あり、それが、顔つき、振る舞いから伝わってきました。

今年初めて、ロッセマリーonzと会場についていろいろお世話になった、幕張メッセさんに感謝状を贈りました。

これからの地球はどうなるのかを考えることが必要です。そのための講演会(併催事業)やエコネコの漫画をかかれた、津山さんの近未来図は「エコ猫を探せ」がお子さんに人気があり、また、会場内の案内レポートをした、ベイエフエムDJのKOUSAKUさんの話が評判でした。また、ごみ問題では、食管協が展示してくれたことが、会場が一層にぎやかになっていました。ごみの減慮、アダプト制度の普



及のために来年も参加を希望しています。地球温暖化防止の目線では、環境省のブース、県庁、NPO法人PV-Netの展示、県内各市町村のグループの活発な活動の紹介。また、エコレポーター、エコツアーに、千葉女子高校生や大学生の協力や、ガールスカウトの皆さんの活動が印象的でした。

「エコライフフェア」や「エコプロダクツ」で知り合いになり、エコメッセに参加していただいたグループもあり、一味違った広がりを見せて実現できました。出展締め切り間際に参加された企業の方々が、エコメッセのアンケートの回収に協力していただきました。回答者には自社のリサイクル商品を提供していただきました。飛び入りとはいえとてもありがたい、協働が実現できたと感謝しています。

最後に、グリーン電力証書を会場に掲載しました。「この会場で使用されている電力は千葉県内の太陽で作られた電力を使っています。」というキャッチコピーを付けて会場内に展示しました。これもはじめの一歩として、評価したいと思えます。

以上、思いつくまま書き出してみました。今年は市民・企業・行政から多くのご協力をいただき大感謝です。12月13日から15日まで、東京ビッグサイトで開催されるエコプロダクツ2007に出展参加します。次年度のエコメッセ2008inちばに生かしていきたいと思っています。

環境シンポジウム2007千葉会議への参加お待ちしております

環境シンポジウム2007千葉会議 実行委員 舩田守良

今年で13回を迎える「環境シンポジウム千葉会議」は、市民、企業、行政、大学が手をつなぎ「身近なことから進めよう、めざすはストップ温暖化！」をテーマとし、更に「“G20ちば2008”～気候変動と持続可能な社会への閣僚級対話 記念事業～」として、環境教育と環境保全の活動の交流と啓発を促進していくことを目的と致しました。

環境シンポジウム2007千葉会議は、昨年迄の「各分科会とその集約である全体会」方式から「ワークショップを中心にしたプレ・シンポジウムと活動の発表会等を行うメイン・シンポジウム」の2日間とする方式に変更し、よりメリハリのあるシンポジウムの開催を目指しております。

以下に本シンポジウムの内容を簡単に紹介させていただきます。

プレシンポジウム：

「ユースコミュニケーション」など若い力が一杯のワークショップと映画会「不都合な真実」を行います。

6テーマのワークショップ：

風力発電ワークショップ C02 ダイエットワークショップ 環境教育ワークショップ

ユース・コミュニケーション 国際交流ワークショップ 個人の枠を超えた温暖化対策ワークショップ

開催日：2007年11月4日(日)10:00～15:30

開催場所：日本大学生産工学部津田沼キャンパス(当日、同学部の学園祭が開催されています)

メイン・シンポジウム：

「環境教育と環境保全の具体的活動の発表」、「市町村や市民・大学・学生の活動のポスターセッション」及び「市民・行政・企業・大学の4者による活動の促進についての討論」を行います。

活動の発表テーマ

地球温暖化 ごみ問題 里山、川、湿地の保全 環境教育

地域の環境保全 学生と若人の環境と環境保全 国際交流 行政の活動

開催日：2007年11月18日(日)10:00～15:30

開催場所：千葉大学西千葉地区社会文化科学系統総合研究棟1階

市原を見て学ぶ会：10月4日(木)開催。

「ライオン(株)千葉工場の見学と小湊鐵道の旅」をとおして、工場環境保全、地域の環境保全・農業・観光を学びます。この企画は地域に密着することと公共交通機関の地球温暖化防止に果たす役割を考える機会とすることでした。募集開始するや多くの応募を頂戴し、定員を増加させて対応しましたが、ご希望に添えませんでしたの方々にお詫びとご協力頂いたことにお礼申し上げます。

8月環境パートナーシップエコサロン

企業の環境安全活動の考え方と活動事例

～ ご安全に ～

日時：8月29日(水) 午後6時30分

会場：千葉市市民活動センター 会議室

話題提供：江藤 治敏 氏 環境パートナーシップちば

協働(パートナーシップ)への取り組みが進められている昨今、協働のあり方はどのようにあれば良いのか模索することが多々あります。例えば、市民と企業との協働を進めていく上で、お互いの立場を認識することも大切な要素となります。また、CSR(企業の社会的責任)の声もよく耳にし

ます。8月のパートナーシップエコサロンでは、現役企業マンでありながら、環境シンポジウム千葉会議の運営委員長として又、当会の会員としても活躍中の江藤 治敏氏に「企業の環境安全活動の考え方と活動事例」について話題提供していただきました。



普段はさわやかな江藤さんですが、「今から企業モードに入りお話をさせていただきます」とスタートされました。江藤氏のお話は、テンポ良くしかもオフレコもありということで、あっという間に約束の2時間が過ぎてしまいました。江藤氏は製造部門で活躍後、インドネシアの出向先で技術・環境安全部門に従事されました。帰国後は、千葉工場環境安全室の担当となり、千葉地域の工場の環境担当の部署との交流に参画され、2001年度からは環境シンポジウム千葉会議に参加され現在は市民として係って活躍されています。

話題の内容は、企業の安全活動を怠ると、企業の大きな損失となり企業存続の危機につながるとして、200年にわたって繁栄している世界第3

位の優良科学会社デュポン社(フランス)の例を用いて説明がありました。江藤氏の勤務先でもある旭硝子(株)グループにおいては、「職場においては安全衛生はすべてに優先して実践すべき事項である」という理念の下に、これを働く人全員へ浸透・共有化させ、一人ひとりが確実に実践する風土を構築することを目指します。」と基本方針に記載されているそうです。このように努力されていても、近年千葉工場の土壌・地下水汚染問題が発覚したそうです。そのときの工場の対応として、調査・報告などHP上でも発表されたそうです。米国TVドラマ「ザ・ホワイトハウス」での報道官役の台詞に「情報は信頼を育て、沈黙は恐怖を育てる」があるそうで、地域との対話など重要とのことでした。最後に、環境安全のポイントは「全てのベ-スは円滑なコミュニケーション 挨拶の励行!」で、挨拶は「ご安全に」と言葉を結ばれました。

千葉県は2006年2月、環境対話集会(千葉県・市原市・袖ヶ浦市・住友化学株千葉工場の共同開催)を開催しました。また、千葉県揮発性有機化合物の排出抑制に係る自主的取組促進条例を策定しました。人が安全で健康的に生き、持続可能な社会への実現に向けても、企業・市民・行政とのパートナーシップがますます重要であると思いました。(文責:桑波田)

次回エコサロンは... DJ KOUSAKU さん

エコメッセ2007inちばの会場インタビュー役のベイエフエムDJ KOUSAKUさんにお話をさせていただきます。

日 時 2007年10月25日(木)午後6時30分~8時30分
 会 場 船橋市女性センター第1会議室 船橋市宮本2-1-4 TEL 047(423)0757
 テー マ 「16万人ゴミ拾い」

2000年から音楽イベントなどで環境保護を訴えてきたKOUSAKUさんは「子どもたちのためにも思い切り大きなイベントを」と、市の人口にちなんだ「16万人ゴミ拾い」を企画。08年秋の開催を目指し、市民団体「U-PROJECT」を結成した。参加者が自宅からゴミを拾いながらゴールを目指し、ゴール地点では趣旨に賛同したアーティストの野外ライブを行う予定。

話題提供 KOUSAKU 氏(ベイエフエムDJ)
 参加費 500円(資料代)

申し込み問い合わせ:桑波田

Tel/fax:043-258-5437

e-mail:kuwahatak@hotmail.com

ゆたかな東京湾をめざして

千葉県環境研究センター 小倉久子

環境研究センターでは、毎年7月の公開講座として東京湾の船上視察会を行っており、今年は7月27日と8月2日に実施しました。いつも、私の顔なじみの方も数人参加して下さい、ありがたいことです。

船の中では、講演というきちんとした形ではなく、周りの景色を眺めていただきながら、説明役としていろいろお話(おしゃべり)をさせていただいているのですが、ここ数年、私が意識してお話していることは、「きれいな海」と「ゆたかな海」の違いです。東京湾が、生きもの(プランクトンや魚)がいない透明な「きれいな海」になるよりも、魚がたくさんいる、すなわち、魚の餌(動物・植物プランクトン)がたくさんいる「ゆたかな海」になってほしいというのが、私の願いなのです。ただし、たくさんいれば良いというわけではなく、「いろいろな生きものがバランスよくたくさんいる」ことが必要なので、これは結構むずかしいところです。

また、三番瀬や盤洲干潟の沖合いを通るときに、干潟・浅海域についてもお話しします。ふつつ、「泥」と「砂」のイメージから、泥干潟よりも砂干潟の方が好ましい、泥干潟は価値がないという見方がされがちですが、それはアサリを食べる人間からの一方的な評価であって、ゴカイを食べるシギやチドリにとっては泥干潟のほうがずっと重要なのです。

私たちは、知らず知らずのうちに人間中心の考え方をしがちです。そうではなくて、生きものの一部として人間がいるのだということを、もっともっと、認識しなければなりません。「きれいな」とか「浄化」という言葉も、人間が勝手にしている評価であって、生きものからみると、

「きれい」 エサがない

「浄化」 エサを食べて生きている



という状態ではないのです。

話はまた、人間社会に戻ります。

東京湾、伊勢湾、大阪湾のような閉鎖的な海域では、海水交換がしにくく赤潮も発生しやすいため、窒素・リンの規制、5次(20年間)にわたる総量規制(濃度×排水量で汚濁物質の総量を規制すること)等を実施してきました。

さらに2005年5月には、中央環境審議会から環境大臣に対して「第6次水質総量規制の在り方について」という答申が出されました。これには、今までの対策の中心であった事業場や生活排水対策に加えて、干潟や藻場を増やして海の持つ自然の浄化力を高めることが提言されました。また、「指定地域の汚濁負荷は、さまざまな主体による社会経済活動の結果として発生するものであるため、その削減に当たっては、全ての関係者による普段の努力が必要となる」と謳われています。もったいぶった言い方ですが、要するに「みんなで汚したのだから、みんなで汚れを減らそうよ」というわけです。

この答申を取り入れて策定された東京湾の第6次総量削減計画では、市民・産業・専門家・市町村(上記の「みんな」ということです)から構成される「東京湾総量削減対策検討委員会」で「総量削減推進計画」を作ることになりました。これまでに2回の委員会が開催され、「みんな」の柔軟な視点から出された意見やアイデアを、現在事務局の県水質保全課がとりまとめて、推進計画(案)を作っているところです。

幸いにして(当たり前なのでしょうが)、「みんな」の考えはもちろん、「人間だけの海」ではなくて「生きものみんなのための海」です。みんなで知恵を出し合って、ゆたかな東京湾をめざしましょう!



運営委員会報告

8月運営委員会議事録

日時：19年8月29日(水) 午後4時～5時30分
 場所：千葉市民活動センター会議室

報告事項

- 1) 千葉市公民館講座(千草台公民館ホタル)
- 2) 千葉市エコ体験スクール
- 3) NPO 協働提案申請書提出進捗状況
- 4) 印旛沼環境基金確定
- 5) 千都よみうり掲載
- 6) 京葉地区ガールスカウト活動進捗報告
- 7) エコメッセ2007in ちばの状況
- 8) 印旛沼わいわい会議の状況
- 9) 千葉市市民活動センターへの当会の活動パネル展示

協議事項

- 1) だより57号について (構成)
- 2) エコメッセ2007in ちばについて
- 3) 印旛沼をきれいにする活動について
10月14日(日) 印旛沼流域子ども会議
- 4) 県とNPO協働提案
9月11日:プレゼン
- 5) 10月のエコサロンについて

お知らせコーナー

東なぎさ大クリーン作戦

日時：11月6日(火) 午前9時30分～12時30分
 集合場所：葛西臨海公園水辺ライン船着場
 内容：普段は立ち入り禁止の野鳥の楽園「東なぎさ」に船で渡り、ごみ拾いと自然観察会。
 参加費：無料
 主催：都漁連内湾釣漁協議会
 共催：葛西東渚・鳥類園友の会
 お問い合わせ：えどがわエコセンター
 TEL：03-5659-1651
 e-mail：edogawa-ecocenter@bz01.plala.or.jp

10月運営委員会議事録

日時：19年10月5日(金) 午後6時00分
 場所：船橋市民活動センター(フェイス)

報告事項

- 1) エコメッセ2007in ちば
- 2) 県とNPOの協働提案結果
- 3) 京葉地区ガールスカウト活動進捗
- 4) 印旛沼わいわい会議進捗
- 5) その他
・環境シンポジウム千葉会議 プレシンポジウム「環境教育ワークショップ」開催

協議事項

- 1) だより57号について
- 2) 印旛沼をきれいにする活動について
- 3) 京葉地区ガールスカウト活動進捗報告
- 4) 10月のエコサロン
- 5) 環境シンポジウム千葉会議
(ポスターセッション参加について)
- 6) エコウォーキングマップ
- 7) その他
・千葉市センターまつり
・12月1日(土)花見川エコウォーキング

第4回印旛沼流域子ども会議

日時：10月14日(日) 午後1時15分～4時15分
 会場：佐倉市中公民館 第3研修室
 内容：印旛沼をきれいにする活動報告及び流域での活動紹介

川の浄化ゲーム

主催：環境パートナーシップちば
 お問い合わせ(申し込み)：桑波田
 Tel/fax：043-258-5437
 e-mail：kuwahatak@hotmail.com

印旛沼わいわい会議 in ちば

日時：11月25日(日)
 会場：千葉市文化交流プラザ 6階
 テーマ：めぐりめぐる印旛沼の水
 4つの分科会と駅前キャンペーン実施
 主催：印旛沼流域水循環健全化会議
 お問い合わせ：千葉県県土整備部河川環境課

「環境パートナーシップちば」は、環境活動の推進と充実を目指し、千葉県内の環境市民のゆるやかな連帯のもと、相互の情報交換と交流を深め、行政および専門家とのパートナーシップによる活動の展開を図ることを目的としたネットワークです。

入会申込先：千葉県環境財団 環境技術部
 環境活動推進チーム気付
 TEL:043-246-2180 FAX:043-246-6969

会費納入先：環境パートナーシップちば
 郵便振替口座 00160-9-401872

千葉県環境財団 環境技術部 環境活動推進チーム気付

<環境パートナーシップちば>

入会申込書

会の趣旨に賛同し(個人、団体、賛助会員として)会費を添えて(郵便振替)入会します

氏名		入会年月日	
住所	〒		
TEL		FAX	
年会費	個人1,000円 団体2,000円 賛助会員5,000円		